

## 令和2年度 インクルーシブ保育研修（第2回）報告

9月4日（金）、静岡市女性会館葵生涯学習センター アイセル21 で第2回インクルーシブ保育研修が行われました。新型コロナウイルス感染防止のため、残念ながら計画していた第1回の研修会は中止となりましたが、今回は県内各地から70名の方が参集し、研修会が実施されました。



講師に常葉大学保育学部保育学科の赤塚めぐみ先生をお迎えし、「インクルーシブの視点で幼小接続を考える」をテーマにお話を伺いました。

初めに国際障害分類（ICHD）に基づく障害の捉え方と国際生活機能分類（ICF）に基づく障害の捉え方の違いについて、生活や保育における具体例を挙げながら、大変分かりやすく語っていただきました。さらに、小学校教育への円滑な接続のための工夫について保育者が大切にしていきたいことについて話がありました。



講師 赤塚めぐみ 氏

参加された先生方からは「事例を交えてのお話がとても心に響き勉強になりました。あっという間に時間が過ぎてしまいました。」「先生に教えていただいた考え方や支援方法を園に持ち帰り共有していきたいです。」などの感想が聞かれました。実施後のアンケートでも「講義・演習は、今後の教育活動等に役立つ内容でしたか。」の質問に対して87%の方がA評価（4段階）と大変好評でした。

### 参加者のアンケートから

- ・ 就学前に何とかしなくてはと気負いすぎてしまい、結果的に支援を要する子供を苦しめてしまったことがあったと反省しました。その子にとってよりよく生活できる方法を探っていき、まわりの先生や支援員さんと協力・相談しながら長いスパンで支援していかなくてはと改めて感じました。（幼稚園教諭）
- ・ お話を聞き、課題を抱える子供に対して、自分よりハビリの関わりをしていると反省しました。ICFの考え方やそれを活用した遊びの例は園内研修で使用できると思うので、自園に持ち帰り、学んだことを他の保育者にも伝えたいと思います。（幼稚園教諭）
- ・ インクルーシブ保育について、理論的に整理された図と具体的な事例を示していただき、とても分かりやすかったです。事例は、今、行っている保育と照らし合わせることができました。（幼稚園教諭）
- ・ 具体的な例を出して教えてください、とても身近に感じました。今、年中の担任をしていますが、つつい「来年は年長、そしてすぐに小学校」と焦ってしまっていました。そうではなく、視点を別のところに向けなければと思いました。好きになることの経験を増やしていきます。（幼稚園教諭）
- ・ 卒園までに「人が好き」ということを育てながらゆっくと個別に関わることの大切さを知りました。配慮を要する子に10の姿をすべて望むのではなく、できるところまで育て小学校につなげていけばよいのだと聞き、気持ちが少し楽になりました。（こども園保育教諭）
- ・ 「人が好き」「集団の一員でいたい」という気持ちが育てられるような関わりを大切にというお話に納得しました。このような捉えができていなかったように思いました。（保育所保育士）
- ・ 具体的な場面での手立てを知ることができ、いろいろな面から支援を必要とする幼児一人一人に関わっていく大切さを学びました。学んだことを関係者に伝えていきたいと思います。（行政関係者）